

一七米ノ間隔ニ鐵筋こんくりーとノ構柱断面 $\frac{37}{8} \times \frac{37}{8}$ ノ柱材二本又ハ四本ヨリ成ルヲ設ケ之レニ高一九米底幅一米ヲ有スル丁形ノ鐵筋こんくりーと軌道桁ヲ架ス軌道桁ノ頂ニハ縱枕木ヲ敷キ之レニ丁軌條ヲ取り付ケ以テ支重輪ヲ導キ底部ノ兩側ニハ溝鋼ヲ埋メ込ミ以テ導輪ヲ導ク溫度變化ニ備フル伸縮接合ハ約六〇米毎ニ設ケタリ尙軌道カ街路ヲ横キル所ニハ鐵筋こんくりーとノ橢形拱ヲ架シタリ該鐵道ハ延長約二二〇二〇米ニシテ六百ノ人夫ヲ役シ約一百日ノ時日ヲ以テ工ヲ了タリ使用材料ハ基礎用こんくりーと一五〇〇〇立方米構柱用七〇〇〇立方米軌道用一六〇〇〇立方米鐵筋二九〇佛噸枕木及軌道用木材二〇〇〇〇〇立方米等ナリ機關車ハ鞍狀ヲナシテ軌道ニ跨リ四〇馬力ノ電動機四臺ヲ備ヘ重量一七四佛噸ヲ有ス客車モ亦鞍狀ヲナシ長六六米ノ八〇人乗ニシテ一側ニ各三ヶノ昇降口ヲ備フ列車ハ通常機關車ヲ中間ニ前後ニ各二客車ヲ聯結シ一時間二〇乃至三〇軒ノ速力ヲ以テ走ル建設費ハ一軒當リ軌道費二〇萬法其ノ他ノ設備費一四萬法ニシテ總費七五萬法ヲ要セリ尙伊國ニ於テハみらんみらにの間 (Milan-Milano) 一〇軒羅馬ヨリ海岸ニ到ル二五軒ベにすめすとる間 (Venise-Mestre) 一〇軒等ニモ同一式ノ單軌鐵道ヲ計畫セリト云フ

(完)

普魯西鐵道ノ橋梁検査用車

(Z. d. V. D. E. V. Nr. 46, 1913.)

年々施行スヘキ鐵橋ノ小検査及五年毎ニ施行スヘキ大検査ニ際シ其都度所要ノ機具ヲ列車ノ手荷物車ニ積ミテ最近ノ停車場ニ送り更ニ人夫ヲシテ橋梁マテ運搬セシムル時ハ從來ノ經驗ニ徴シ屢々機具ノ損失ヲ生シソノ修復費及人夫賃少ナカラス依テ數年來 Breslau 其他二三鐵道管理局

ニテハ所謂検査用車ヲ使用シテ好果ヲ收メ得タリ
 Breslau 管理局ニテハ不用ナル四等車一臺ヲ検査用車トナシ其内部ヲ二ツニ仕切り一方ノ大ナル
 室ニハ機具ヲ收メ他ノ小ナル室ニハ検査ノ結果ヲ整理シテ直ニ橋梁臺帳ニ記入シ得ヘキ設備ヲ
 ナセリ

機具室ニ備フヘキ者ハ Klopsch, Griot, Bonsack 式ノ各撓度計及 Manet-Rabaut 及 Balke 式ノ多クノ應力
 計、水準測量機一臺、梯子、板、木塊及工具並ニ荷重試験列車ノ防護信號板及列車信號信號燈等ナリ而
 シテ總テノ機具ハ見透良ク各其置場ヲ一定シ且ツ一々其使用法ヲ揭示シ置ケリ

他ノ小室即検査員室ニハ一基ノ卓子、二基ノ椅子、洗面器及上衣掛ヲ備ヘ更ニ最モ必要ナル大ナル
 呼鈴ヲ有スル携帶電話器ヲ收メ尙兩室トモ暖房裝置ヲナセリ

此検査用車ニ對スル規程中ノ主ナル條項ヲ掲クレハ次ノ如シ

鐵橋検査ニ必要ナル總テノ機具ハ此ヲ検査用車ニ納メ車側ニ橋梁検査用車ト記シテ此ヲ Breslau
 Haupt-Bahnhof ニ置ク

此車ニ收ムル機具ハ個々ニ借用スルコトヲ許サス故ニ各營業事務所又ハ建設課ハ適時ニ此検査
 用車ノ使用ヲ管理局ニ願出ツヘシ

検査スヘキ橋梁ニ最モ近キ停車場マテノ検査用車ノ往復ハ Personenzüge 又ハ荷重試験用機關車ニ
 依リ此停車場ヨリ現場マテハ試験用機關車ヲシテ牽引セシム

検査用車ハ貨物列車ニ連結スヘカラス此レ撃衝及動搖ニ因テ精巧ナル測定機ヲ損スルヲ以テナ
 リ

此検査用車ハ Program 管内ニテ好結果ヲ得タルヲ以テ亦他ノ管内ニ使用シテ利益アルヘシ但シ伯林管内ノミハ列車回數頻繁ナルヲ以テ此ノ如キ車ヲ使用シ得サルカ又ハ得ルトスルモ列車運轉上大ナル困難ヲ感スヘシ

検査用車使用ノ利益ヲ約言スレハ
經濟上ニハ

總テノ機具ヲ一ヶ所ニ集メ置キ得テ監視及検査ニ容易ナルコト
機具カ愛用サレ得テ長ク使用ニ堪ヘ又損失少ナキコト

又技術上ニハ

機具選擇ノ範圍廣クシテ橋梁検査カ用意深ク且ツ信憑シ得ヘキ様施行サレ得ルコト
又衛生上ニモ利益頗大ナリ即検査員ハ驟雨ノ際ニ車内ニ避ケ得ヘシ
尙此検査用車ノ維持改造車内ノ設備及備品ノ補充ニハ約二千五百馬克ヲ要スヘシ(完)

重力利用ノ操車ニ對スル不良天候ノ影響及

其防止法

(Zentral Blatt der Bau-Verwaltung. Nr. 86, 87, 1912.)

不良ナル天候ノ爲メニ生スル操車ノ障害ヲ舉クレハ

(a) 車輛カ目的ノ個所マテ走り得サルカ又ハ十分ナル速度ヲ得ル能ハスシテ後續車輛ト衝突シ爲メニ車輛自身若クハ積荷ノ損害ヲ惹起ス

(b) 車輛ノ速度緩慢トナルヲ以テ仕譯設備ノ效率ヲ減少セシムルノミナラス又走行車輛ノ間隔ヲ